

令和5年度 授業改善実践研究校報告書 亀山中学校

1 学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

- (1) Hyper-QUの「自分の考えがクラスの意見になることがある」という質問項目に対する回答が、全国平均よりも2~3ポイント下回っている。この結果からも分かるように、授業や学級の中で、発言することができない生徒や、学習面の課題から「学び」に参加することが難しく、不安を感じている生徒が多い現状がある。
- (2) 令和4年度全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国平均と比較すると、国語が-5.0、数学が-14.4、理科が-6.3と大きく下回っている。一方、授業が「分かる」と感じている生徒は、3/4程度以上存在しており、学力と学習理解度が乖離している現状もある。
- (3) 各種調査からスマートフォンやゲーム機を操作している時間が長く、家庭学習時間が著しく短いことも影響していると考えられる。

2 研究主題

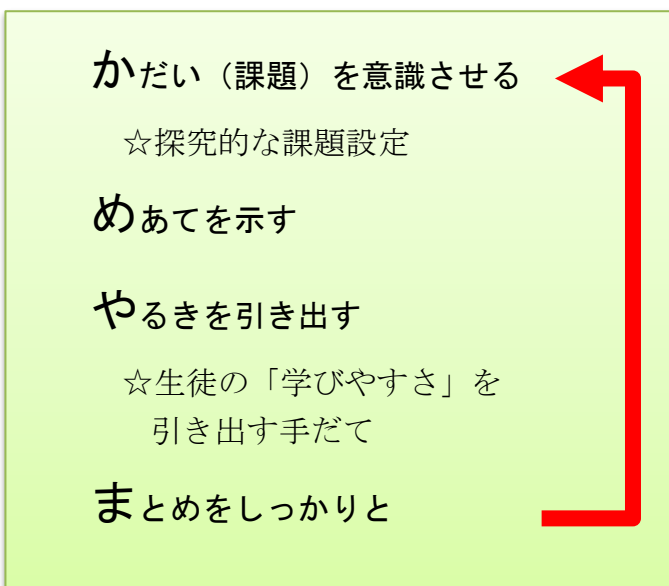
すべての生徒が「学び」を実感できる授業づくり

3 取組内容

※1の課題解決に向けて、重点的に取り組む項目とその具体

(1) 授業改善

- ユニバーサルデザインを取り入れた授業デザインの構築と定着



亀中スタンダード 授業デザイン

― 協働的に個が学び、一人一人が「学びを実感」できる授業づくり ―

展開	生徒の動き	学習活動・指導の流れ
導入	課題意識を持つ。	かだい(課題)を意識させる ☆探求できる課題設定 (生徒の疑問について探求できるものなど…)
	授業の目的を理解する。 授業の見通しを持つ。	めあてを示す 授業の「めあて」を示す 授業の「流れ」を示す
展開	安心して学習する方法を選択する。 多様な考え方を知る。	やるきを引き出す ○視覚的なてがかりを用いる ○表現の仕方(話す・書く)のモデルを示す ○協働的な学び(ペア・グループ)を活用する ○ICT(タブレットなど)を効果的に活用する など
	学習内容が定着する。 できたことに安心感を持つ。	まとめをしっかりと 振り返りの時間を確保する 疑問や発見など

○ 授業ルール（5K）の構築と定着

- ・ 心が落ち着く環境作り
- ・ 気持ちのよいあいさつ
- ・ 考える時間を大切に
- ・ 協力して学習
- ・ 繰り返し学ぶ

授業で勝負 **5K**

流れ	○教師の動き
休憩中	K 心が落ち着く環境づくり 2分前着席 黙想【もくそう】 ○2分前には教室で生徒の様子を見る
はじまりのあいさつ	K 気持ちのよいあいさつ 先言後礼【せんげんごらい】 ○時間どおりに始める
めあて	学習のめあて ○授業の「めあて」を示す ○授業の「流れ」を示す
個人の学習	K 考える時間を大事に ○意見や質問は挙手をし、許可を得てから話をさせる ○注目させて、私語や作業を止めさせてから、指示を出す ○指示を出した後は、理解したかどうか全体の様子を確認する
グループの学習	K 協力して学習 ベア・小グループ（学習班）で学びあう ○生徒同士の思考の交流を促す 
ふりかえり	K 繰り返し学ぶ まとめ・振り返り ○学習の振り返りをする時間を確保する
おわりのあいさつ	語先後礼 ○時間どおりに終わる

(教員用)

授業で勝負 **5K**

流れ	生徒の動き
休憩中	K 心が落ち着く環境づくり 2分前着席（授業道具をそろえて着席します） 黙想【もくそう】（両目をとじて落ち着きます）
はじまりのあいさつ	K 気持ちのよいあいさつ 語先後礼【ごぜんごらい】（授業に向けて気持ちを切り替えます） ① 先にあいさつ 「姿勢」 「これから○○の授業をはじめます。」「礼」「お願いします。」 ② 後に礼
めあて	学習のめあて（学習の目的を理解します）
個人の学習	K 考える時間を大事に しっかり課題に向き合い、自分の考えを持ちます みんなが考えることができる環境をつくります
グループの学習	K 協力して学習 ベア・小グループ（学習班）で学びあう ① 机をすき間なくぴったりつけます ② 休んでいる人の机もきちんとつけます ③ わからないことは周りの人にききます ④ グループの中だけで聞こえる声の大きさを話します
ふりかえり	K 繰り返し学ぶ まとめ・振り返り ① わかったことや新たな疑問を振り返ってまとめます ② 自分の考えが何によってどのように変わったのか振り返ってまとめます
おわりのあいさつ	語先後礼 ① 「○○の授業を終わります。」「姿勢」「礼」 「ありがとうございました」 ② 「着席」 ※先生の指示で休憩に入る

(生徒用)

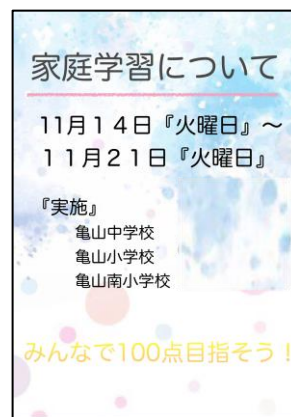
○ 校内研修会の実施（年4回）

(2) 校内支援体制の充実

- ケース会議の実施（各学年につき年3回）
- 特別支援教育推進委員会による支援状況の確認と支援方針の検討

(3) 小中連携

- ICT 機器の効果的な活用に向けた取り組みの共有、授業参観の実施
- 小中で共通した家庭学習週間の設定



(家庭学習週間のチラシ)

4 検証結果

※成果指標の検証方法および結果

成果指標のデータ等

- 「授業に新たな学びがあり、授業を通して成長できている」の肯定的回答は、年度当初目標としていた85%を上回り、91%に達した。
- 「教室に居場所があり、安心して生活できている」の肯定的回答は、年度当初目標としていた90%を上回り、96%に達した。

5 研究成果

※成果・課題等

(1) 授業改善の取組を重点化していく必要性

- 校内支援体制をより充実させ、生徒の実態把握に取り組むことで、生徒の実態に合った取組に焦点を当てていく必要がある。
- 学校評価アンケートの評価項目を具体化し、何に取り組むべきか明確にしていく必要がある。

(2) 生徒自身による「継続して自ら学習する力」の習得

- 自ら進んで取り組むことができる課題の開発に取り組む。
- 小中で共通した家庭学習週間が定着するよう児童生徒や保護者への周知を図る。

(3) ICT 機器の効果的な活用

- ICT 機器の効果的な活用に向けた取組を共有していく。